

殺虫剤

ネキリエース® K

種類名：イソキサチオン粒剤

第22485号

特長

- 防除困難なネキリムシ老令幼虫にも高い効果を示します。
- 土壌表面や作物の株元にまくだけなので害虫防除が簡単に出来ます。
- コオロギにも有効です。
- 優れた誘引作用で虫を引きつけます。

【有効成分】 イソキサチオン……………0.5%

【性状】 赤紫色粒状 粒径3mm 粒長2mm～10mm 【毒性】 普通物※ 【危険物】 一

【有効年限・包装】 5年・600g×20

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

ネキリエースは保土谷化学工業(株)の登録商標です。



商品規格

規 格	入 数	
600g	20	
希望小売価格・税抜(税込価格)		
980円(1,078円)		
サイズ幅×高さ×奥行 (mm)	重 量	
個 装	145×230× 80	600g
外 箱	350×330×305	13.5kg
ITFコード		
14571367110020		
JANコード		
4571367110023		

適用病害虫・使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオン		
はくさい	コオロギ類 ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は 定植時～生育初期 但し、収穫14日前 まで	1回	土壌表面 株元処理	1回		
キャベツ だいこん はつかだいこん	ネキリムシ類		は種時又は定植時					
ブロッコリー			定植時～生育初期 但し、収穫14日前 まで	4回以内		4回以内		
レタス			は種時又は 定植時～生育初期 但し、収穫21日前 まで	2回以内		2回以内		
非結球レタス			は種時又は定植時	1回		2回以内		
なばな			発芽期まで					
だいず			は種時～本葉2葉期					
えだまめ				収穫21日前まで		2回以内	2回以内	5回以内 (粉剤及び粉粒剤の は種時の処理は 合計1回以内、 粉剤及び粉粒剤の 定植時は 合計1回以内、 粉剤の土壌表面 散布は 1回以内、 粒剤の土壌表面 株元処理は 2回以内)
いちご			ハスモンヨトウ	収穫前日まで		1回	1回	
葉ごぼう			ネキリムシ類	は種時～子葉展開期		2回以内	2回以内	
さといも ごぼう				収穫14日前まで		4回以内	4回以内	
かぶ						2回以内	2回以内	
ねぎ				収穫30日前まで		2回以内	4回以内 (は種時は1回以内、 植付時は1回以内、 植付後は2回以内)	
にんじん				発芽期～生育初期 但し、収穫14日前 まで		4回以内	4回以内	
メロン			コオロギ類	収穫直前まで		1回	配置 土壌表面株元処理 株元処理	1回
えごま(種子)		ネキリムシ類	定植時	2回以内				
たばこ		植付時						

■については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意

- (1)被害の発生をみたら作物の根際にそのまま散布すること。
- (2)つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (3)メロンに使用する場合には、以下の点に注意すること。
 - ①収穫前増糖時の乾燥期にコオロギによる食害が発生するので、食害防止に使用すること。
 - ②果実にかからないように果実周辺に1カ所あたり数粒ずつ容器に入れ、土壌表面、あるいは床面に配置すること。
 - ③雨や水がかかると効果が低下するので、ハウスで使用する場合は、できるだけ灌水がかからない場所に配置すること。また、露地で使用する場合は、降雨の予想されるときには使用を避けること。
- (4)犬、猫などペット類、家畜が食べないようにすること。食べる可能性のあるところでは使用及び保管をしないこと。
- (5)蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6)ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1)誤食などのないよう注意すること。
- (2)本剤の解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。
- (3)本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (4)散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1)水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2)散布器具および容器の洗浄水は河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。